



第3回  
うちだ としかつ  
**内田 敏克 さん**  
きにゃんね大仁夏祭り  
実行委員長



ハートフルな花火を  
打ち上げたい

コロナ禍による2年間の休止を経て、3年ぶりに開催される、71回目の『きにゃんね大仁夏祭り』。大仁で生まれ育ち、旅館と鮎料理店を営むかたわら、消防団や商工会、おおひと笑店会など、さまざまな立場で祭りの運営に携わってきた内田さんも、今年、ついに実行委員長に就任しました。「新型コロナで亡くなった人や、大変な思いをしている人がいる。鎮魂や復活、これから頑張ろうという思いを込めて、ハートフルな花火を打ち上げたい」と、開催にかける委員長の気合いは十分です。

市内で活躍する人にスポットを当てての新連載。第3回は、きにゃんね大仁夏祭りで行委員長を務める内田さんに話を聞きました。

きにゃんねの花火の魅力については「花火の量と、それを間近で見られる迫力、これに尽きる」と内田さんは力説します。都会へ巣立った息子さんも、3年ぶりの花火を見たいがために、運営の手伝いをしに帰ってくるそう。「ふるさとの祭りは、遠方の家族が帰省するきっかけや、子どもや孫の思い出になる。今後も続けていかななくては。いずれはコロナ禍前にあった、地元商店や団体が露店を出す歩行者天国も復活させたい」と来年以降も夢は膨らみます。

地元の多大な協力を得ながら開催している祭りですが、その一方で、実行委員の高齢化という課題も抱えています。自身も60代に突入した内田さんは、「若い人の力や発想が、もっと欲しい」と、祭りの未来に向けて、切実な思いも話していました。

内田さんにとっての伊豆の国市は、「安心できる、あたたかいふるさと」。今日も内田さんは、お店の厨房に立ちながら、ふるさとをあたためるアイデアを練っています。

国際交流員がモンゴルを紹介！

連載

ジヤルガルの  
ほのぼの日記

第53回 ふるさと博覧会  
「モンゴルの文化に触れてみよう」



皆さん、サエンバエノー。3年ぶりに伊豆の国花火大会が開催され、賑やかで楽しい夏休みになりそうですね。海へ行き、花火を見て、美味しいかき氷や田中山スイカをいっぱい食べられる伊豆の夏の夏は楽しみです。モンゴルの夏のナードム祭、アイラグ（馬乳酒）、草原の風が恋しいですが、今はすでに秋の気配を感じていることでしょうか。

今年日本モンゴル外交関係樹立50周年記念イベントが両国で数多く開催されています。今月、ウランバートル市内では、モンゴルの日本愛好家が集まるジャパンフェスティバルや日本の女子アイドルグループのコンサート、スフパートル広場で60人の日本人踊りによる阿波踊り、1968年に日

本とモンゴル両国で大ヒットした曲「恋の季節」の今陽子さん（ピンキーとキラーズのボーカル）のコンサートなど、イベントが目白押しです。

一方、伊豆の国市でも、8月11日（木・祝）～14日（日）に葦山時代劇場ひだまり広場の芝生の上にゲル（移動式住居）を設置し、モンゴルの夏を感じられるイベントを企画しています。ゲルの中では伊豆の国市友好都市交流協会の活動やモンゴルとの交流を紹介するパネルを展示し、映像でモンゴルの解説などを実施するほか、モリンホール（馬頭琴）体験、モンゴルのお茶やおやつを試食ができます。リハーサル室では、いずのくに特命大使「かのん」と「べりる」との触れ合い、民族衣装の試着、写真展示が行われ、葦山図書館幼児図書室では、モンゴルの絵

本の紹介および読み聞かせ、おもちゃの「シャガイ」（羊のくるぶしの骨で作ったおもちゃ）で遊べるなど、子どもから大人まで楽しめるプログラムになっています。また、市内で夏季合宿を行っているモンゴル柔道アカデミーの子どもたちによるモンゴル相撲のデモンストレーションも披露します。

モンゴルでは『1,000回聞くより1回見た方が良い（日本という百聞は一見にしかず）』ということわざがあります。アイラグと草原の風までは再現できませんが、モンゴルのゲル暮らしを体験しに、この夏は葦山時代劇場ひだまり広場へお越しください。

ふるさと博覧会については、<https://furusaku.jp/> からも確認できます。

それでは、バイルタエ。

問 協働まちづくり課  
☎ 055(948)1412



家畜とともに草原を移動して生活する遊牧民が住むのは、モンゴル語でゲルと呼ばれる移動式の住居です。8月11日（木・祝）から14日（日）に葦山時代劇場ひだまり広場で展示されます。（写真：牧野卓夫）

かんたん手話講座 ⑳ 何時？

障がい福祉課  
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

「何時？」の手話は腕時計の位置を指差してから「いくつ？」の手話を表します。「いくつ？」は、手のひらを上に向けて親指から順に折って握ります。眉を上げて、問いかける表情で表しましょう。時間や金額などの数字は、正確に伝わるように指で表したり、紙や空中に書いたり、指し示したりと工夫して伝えましょう。

